

この指と一まれ（第5回）

平成26年（2014年）2月21日

大中里保育園 園長 塩川恵美子

感性を育てるって??感性って大事なのかしら?

12月のとある日曜日。「かぐやひめの物語」を見に行きました。「かぐや姫が犯した罪と罰」というフレーズに、何が罪でどんな罰を受けたのだろう?罪と罰って?何を言いたいのだろうということが気になったからでした。

ああかな、こうかな、ああでもない、こうでもないと思いつつ・・・、話はあっという間にクライマックスへ。そうです。姫が月に帰る時を迎えたのでした。

いつでも別れのシーンは胸が痛くなるものです。きっとひとつや、ふたつそんな思い出や経験があって甦るからでしょうか?

大人げなく鼻水をすすり目頭を押さえながらシーンに見入っていると、あちこちからもすすり声。そのうちヒックヒックという声が次第に泣き声に変わって、もう抑えられないという感じで声を殺しながらも泣いている（わがママや不安定なイライラの泣き方と違うかなり上質?の泣き様に思えました。）子が。1・2年生でしょうか?

涙をしきりに拭いて声を抑えようとすればするほど感情が高ぶるのか止められず・・・。一緒にきていたママ（これがまたいいのです。黙ってただただ背中をさすってしてくれたのです。）に背中をさすられながら帰っていきました。

罪と罰は曖昧になってしまったけど その子の場所もはばからない泣き方に徐々に感動を覚え、その感性に大満足したのでした。

どんなお家でどんなふう to 育ててるのかしら?としばらく気になって、私は小さい頃あんなに感動したり、人前でも感情を出せていたかしらと。絵を見ながら子どもの心を見て保育を考える勉強会をする時に決まって「感性を磨かないと・・・」「感性がなければ・・・」と言われます。そうだ!私たちの仕事は感性が大事だなと改めて思うこととなりました。

ところで感性ってよく使うけど文字にしてみると??言葉にすると??思いや気づき、感じ方が豊かってことかな?? 直感や感覚がするどいってことだけ??と、なんとまああやふやなこと!!

でちょっと調べるとエラー—I先生方がいろいろ書いてあるものに出会いました。その中で、**感性は強**



い欲求不満があっては育たない。十分手塩にかけて育てられたり、こうしろああしろと過剰に期待や干渉をされず豊かに承認されて育つことで豊かな人間らしい感性が育つのだということ。そして感性は地域社会や家庭という生活の場（学校では育ちにくい）で育つのだと。つまり子どものそばにいる大人（親それに準ずる私たち保育士も）が鈍感だと育たないということになります。

そんな文章に、改めて私たち保育士の役割が、子ども達に与える影響の大きさを思わずにはいられません。佐々木氏は大きく（私は60歳を過ぎて大きくなりすぎました）なればなるほど感性を豊かに育てるのは難しいといわれているけどでもなんとかしなければとの思いに駆られるこの頃です。
パパ!! ママ!! 子どもの感性は家庭生活の場で育つということを心にいつも感じていてください。

なぜ感性が大事かという・・・

自分の物の感じ方を育てることつまり受容的に 許容的に受け入れられて自分というものができからなのですね。自分の存在に誇りを持って安心して生きる子どもを育てたい・・・。

素直な感情が育って相手の立場を考えることのできる感性こそが本当の感性だといわれます。そこをめざして、私たち（パパやママはまだ若いので大丈夫）もまだまだ諦めないでもっと豊かに生きるために感性を磨きませんか??

